

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人 シルバーの森夕照苑		
事業所名	シルバーの森 夕照苑		
所在地	大津市富士見台44番14号		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地平和堂和邇店2階		
書面調査日	令和3年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街から少し離れた閑静な住宅街に立地しており、交通量も混在することなく安心して出入りできる場所であり、「私らしく穏やかに暮らす」を理念としている。利用者様、家族様との関係作りが、良好で生活を送れる環境を目指している。アットホームな雰囲気の中で季節感のある生活をして頂けるよう支援している。食事面では、手作りの食事を提供し季節に合わせた食材を中心にバランスのよい食事提供を心がけ、満足して頂けるよう取り組んでいる。コロナウイルス感染症防止の為、面会等は制限して少しでも楽しい時間を過ごすよう日々のレクリエーションを個人の力に合わせ皆で出来る事をしている。夕食後には、安眠して頂けるよう足浴の提供をしている。一人一人が、利用者様を思い、少しの変化も伝達ノート等を利用して情報を共有し、対応するようにそれぞれが取り組んでおり、利用者様一人一人に合ったケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス対策のため、家族の訪問面会の制限、ボランティア来訪の自粛、地元住民との交流の制約等、多くの利用者の日常生活を拘束するなかで、理念に掲げる生活を可能とする為の支援をしている。不幸な出来事で受けた行政処分も終了し、職員は利用者へ寄り添う姿勢を保ちながら日々の支援に努めている。外食の楽しさを維持するために宅配食を取り寄せたり、職員の輪番で調理し提供している食事は、調理に参加できる利用者はいなくなったが、旬の食材を使い、利用者の希望を取り入れた献立で、食生活の楽しさを維持している。外出が制限される状況に対応して、介護タクシーを利用できないかの検討をはじめ、毎日のレクリエーションに体操を取り入れるなどで運動不足を補っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義、事業所の理念の共有については、新規採用職員の時に理解を利用して仕事に従事できるように研修を行っている。十分に実践が行われているかは不安なところではあるが、月1回のユニット会議、問題が起きた際に当日の職員と管理者と相談しながら、意義や理念にかえりながら支援を検討している。	「私らしく穏やかに暮らす」と謳う簡潔で明瞭な理念を玄関や、リビングの手洗い近くに掲出し、身近に感じるようにしている。課題発生時には理念に沿った解決に努力し、利用者の希望に合わせた対応に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の秋の終わりから、スタートした子供食堂(みんなの食堂)を今年3月から新型コロナウイルス感染症拡大のなか、お休みとなっている。地域の一員にはまだまだ日常的になれていないと感じている。	新型コロナウイルス対策のため、地元自治会との交流、各種ボランティアの来訪、「子ども食堂」等の地域との付き合いは停止している。	地域の人々との交流の自粛規制が解除された時に、遅滞なく交流が再開できる努力をして欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は、まだまだと感じているが、地域・近隣の方から相談が本年今まで以上にあった事で、事業所がある事への認識がされつつあるかと思っている。自治会さんの力を色々な場面で、多くお借りしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、相談や報告、施設の取り組みについて理解を頂く機会となっている。助言をサービス向上に活かしている。	大津市の文書通達に従い、書面会議とした時もある。議題内容によっては、事前に協力医に相談し助言を受けることもある。議事録は利用者家族に配布し、職員も閲覧している。利用者の喀痰の後処理の助言があり活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課・地域包括と連携を密にとり相談や方向性の助言・協力を頂ける、相談ができる協力関係は、築けていると感じている。	行政処分は終了したが、身体拘束、高齢者虐待等の調査方法、職員への調査方法などの指導があった。困難事例の相談に対し、指導や助言を受けている。行政への積極的な参加事例はない。	行政が主導する研修の会場提供など積極的交流を実現して欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解ができ、継続ができるように芽を発見していけるような職員関係も、構築できている。	外部講師を招聘した研修等により職員一同の理解と共有が進んでいる。玄関は、防犯上家族の同意の上施錠している。身体拘束の事例のないことを運営推進会議で報告している。管理者・役職者で構成する身体拘束適正化委員会は、運営推進会議と併催している。	身体拘束適正化委員会の議事録を独立して作成し、保管して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を開催している。(外部研修は、本年度はまだ行えてない)見過ごすことがないようにお互いに注意しあえる関係づくりが構築できている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のユニット会議にてその方らしい権利が守られるように話し合いをしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一つ一つ丁寧に説明し家族に確認、同意を頂きながら行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議や面会時に意見や要望を伺う。	新型コロナウイルス対策のため、来訪の機会が少なくなっているが、可能な限り家族の苦情や要望の聞き取りに努めている。苦情の内容はファイルして保存し、検証や改善に役立てている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議にてプランの見直しを行っている。	職員の意見や提案は、書式に従い提出して毎月のユニット会議で検討し、採否を決定している。会議議事録作成担当者が固定していたが、職員の提案により負担軽減のため輪番制とし実行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も積極的に介護現場に入り、職場の雰囲気作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に、困っている事や支援してほしい項目をできるだけ入所前に把握したうえで、安心した生活を送っていただけるよう支援している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っていること、心配に思われている事を伺いながら、安心して入所いただけるよう誠意をもって対応することを心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と本人様が希望される環境を理解しながら、よりよい生活ができるよう安心安全に努めながらケアプランを作成している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の性格や好みに応じたレクリエーション活動、家事等を通して友好的な人間関係が構築できるように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、密に連絡を取るようになっている。利用者様の様子を伝え、本人様にとってより良いケアに繋がられるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの面会は、積極的に行っていたが、コロナウイルスの感染拡大防止の為現在は制限している。	本人が使っていた鞆、タオル等使用可能なものを継続して使い続けたり、利用者との会話で好きなものを話題として取り入れ(た話題を)馴染みの関係が途切れない様に提供している。年賀状を一緒に作った利用者もある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席を考慮し、トラブルや孤立を防ぐため、常にスタッフが目を配っている。必要時には、座席の変更を行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、必要に応じて相談に努めている。ただあまり退所後は、家族様や利用者様が来られる事は、多くない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々変化していく、本人様の思いや希望にできる限り叶うように努めている。	事業所独自のアセスメントシートで、本人の意向の汲み取りと把握に努めている。業務日誌、伝言ノートにより、各利用者の情報を共有している。日頃口調が悪いと思われた利用者は、悪意がない性癖と判り、視点を変えて穏やかに支援できるようになっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が、入居前の生活歴をしっかりと共有する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの心と体の状態に応じて、家事参加等を促し、能力維持に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーにて作成。ケアマネージャーも日々現場に入り現状をしっかりと把握している。	介護計画書は、ケアマネージャー、職員、管理者、事業所所属看護師がアセスメントの結果に従い検討・作成している。定期的には3ヶ月毎、変異を認められた時には随時計画を更新し、家族に説明、同意を得ている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな記録の中で振り返りを行うことで新しい気づきができ、職員同士情報共有に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は、難しい課題であり、またコロナ禍の中で、今まで行っていた外食等もできない。しかし時々の病状に応じて、食事の形態や食事時間なども個別に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、子供食堂開催など行っていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力医の受診希望の場合は、月2回の往診で対応しています。	かかりつけ医を継続している利用者は、随時本人・家族の意向に従い、家族が対応して受診し、結果は家族と共有している。家族の意向で協力医に変更した利用者もある。協力医の定期検診は毎月2回である。看護師を職員として配置し、日頃のケアに生かしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え週2回の訪問看護師が体調管理に訪問するようになったことにより利用者様の安心感が増したと思われる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、定期的に面会しご家族様と相談しながら早期退院に向けて医療機関との話し合いをもつ。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で終末期の看取りも視野に入れて支援を行う方向で進めている。	「重度化時対応希望書」を契約時に同意文書を交換し、状況の変化に応じて、随時検討し内容を共有している。毎年ターミナルケアに関する外部研修に参加し、職員は意識を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命防火訓練を行い利用者さんの急変時の対応が適切に行えるように備えています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。消防職員立ち合いの下消火器の指導をして頂いている。	消防署立会いで、夜間火災想定を含め年2回実施し、報告書も残している。災害対策マニュアルを作成し、外線電話器近くに保管している。地域住民の訓練参加はなく、避難場所は決まっているが、住民参加は不確定である。食料・飲料水は3日分 備蓄している。	避難場所への経路確保と、地域住民への協力依頼をさらに進めて欲しい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格と個性を大切に、個人の尊厳を守りながら、言葉遣いや態度に常に配慮している。	行政の指導による人権擁護意識向上のため、毎年1回、内部研修の実施、外部研修への参加を続け、研修内容を記録し実践に努めている。日頃の声かけに適した言葉遣いについて、職員間で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞きながら、自己決定ができるように、会話では、選択できるように、ご自身で決めて頂きレクリエーションを開催している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々の生活スタイルに合わせて、希望を聞き確認しながら日々の生活を支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは、定期的に行われ、その人に合ったスタイルにする事で、利用者様は、満足され笑顔が増えます。お洒落も本人の意向を尊重しております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、楽しみの一つで重要であるので、食事時の利用者様の表情をみながら好みの物の提供に努めている。季節感を大切に、時期に応じて準備している。	職員の輪番で調理を担当し、共に食事する職員が検食している。季節感を出す食材を使い、利用者個人の好みに合わせる努力をしている。新型コロナウイルス対策として、外食に変わる宅配食を利用することもある。調理に参加できる利用者はないが、年間6回ほど行事食を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量には、十分気を使いながら、天候や季節に応じて、利用者様の習慣や意向に応じて、ここに対応して提供している。摂取食の記録を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回朝昼夕と必ず行い、スタッフの声かけにより、見守ったり、介助を行なっている。口腔内の清潔は、大切なので、利用者様も丁寧に歯を磨かれています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の記録を行い把握し、トイレ声かけ・誘導・見守りを行っている。オムツの方は、状態をみてリハパンを使用して頂ける様に支援している。	殆どの利用者がリハビリパンツ・パッドを使用するが、可能な限り自立排泄ができるよう、排泄パターンに基づく声かけ支援を行っている。入居を機にオムツを着けている理由を取り除いてリハビリパンツパンに改善した利用者がある。トイレの場所の表示を大きく判り易くしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取、腹部マッサージを行い適度な運動を促しています。排便状況を記録し主治医と相談を行っている。自然排便が出来るよう一定の時間座って頂く場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル確認を行い週2回以上の入浴1日3人までとし、余裕をもって楽しんで頂ける様に心がけている。	週2回の入浴を基準とし、利用者の希望に合わせて対応している。同性介助を望む利用者の意向に合わせている。足浴を併用し、夜間の体感温度の調整に役立っている。重度の利用者には、バイタル検査と観察の後、状況判断し慎重な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調、希望に合わせて休息を取って頂いてる。夕食後には、バイタル確認し毎日足浴を行い浮腫改善軽減、清潔、安眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルにいつでも薬の説明を確認出来るようになっている。職員がダブルチェックを行い、服用される時には、一人ずつ利用者の前で声を出し確認。飲み込まれるまで見守り記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や袋をお願いしてたたんで頂き参加意欲を出しておられる。塗り絵や行事参加を壁に展示し話しながら楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス感染予防の為、子供食堂等の交流が行われておらず外出も控えているが、終息した際には、以前のように行っていきたい。	新型コロナウイルス対策のため、計画的な外出はできていない。運動不足解消のため、月2回屋内での体操教室や、毎日おやつ前に体をほぐす体操を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は、預かっていない。必要な物があれば、ご家族様に連絡をし購入して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で手紙を書くのは、難しい為、職員が連絡をとり、電話で話して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁画を利用者様と作っている。ユニットが分かれているが利用者様が自由に行き来できるようにしている。	自然採光と人工照明を組み合わせ、明るい空間づくりに努めている。季節の変化を感じさせる壁面の装飾を利用者と共働で作り、随所に時計を設置して時間感覚の喪失防止に努めている。共用空間の清掃に努め、換気を十分に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席では、気の合う者同士が座って話せるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは、ご自宅から使い慣れた物等を持ち込んで頂いている。	フローリング仕様で、寝具、筆筒、テレビなど、使い慣れたものを持ち込み、家族の写真や、自分の作品で壁を飾るなど、自分の好みに合わせた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・廊下・玄関等に、手すりを設置し安全に苑内を歩く事ができるようにしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新型コロナウイルスの影響により地域交流が行えていない。	新型コロナウイルスによる自粛規制が解除する事ができたら、地域の方に来苑して頂けるように施設作りをしていきたい。	子供食堂を再開し、地域の方に利用して頂けるようにしたい。自治会への参加をし地域貢献できるようにしていきたい。	6ヶ月
2	35	新型コロナウイルスの影響により避難訓練等の協力依頼行えていない。	新型コロナウイルスによる自粛規制が解除する事ができたら、地域の方に協力依頼を行いたい。	避難場所への避難経路確保と確認を行い、近隣地域住民への協力依頼を行いたい。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。